

## 2022年度「ともの家」事業報告

### はじめに

毎年 1 月に始まる「きょうされん」の国会請願署名の内容に、初めて職員の給与保障が加わりました。15 年前の法改正で全国の無認可作業所が法定施設に移行し、安定した給与が保障されると期待しましたが、介護、福祉の仕事の低賃金は変わらず、そこに人材不足が拍車を掛けています。運営費は、日額払いのため、仲間の出勤率が経営に大きな影響を及ぼします。理念を取るか経営を取るかの、二者択一を迫られている事業所の苦悩を耳にすることが増え、実際に無認可時代から共に歩んできた事業所が、経営の危機に陥り、職員を削減した事案がありました。経営重視の事業所は増える一方ですが、法律に違反するような大きな不正や虐待が発覚しなければ、特に問題なしとして、事業運営は継続されます。

「きょうされん静岡支部」として、今年度も静岡県と静岡市に対して、事業所の安定運営に対する要望書の提出を行いました。制度に則り事業遂行が出来ているか否かを判断することしかできないと、突っぱねられました。県も市も、そこに暮らす障害のある人たちの幸せや、障害福祉に関するビジョンなどノープランだと言うことがよくわかりました。理念と経営のバランスを崩さないためには、国に対して法律の改正を訴える事しか方法はないと感じています。

ともの家全体を振り返ると、特に生活介護の仲間たちの、障害による身体の変化と高齢による障害の重度化が著しく、体調を崩してお休みする仲間が増えています。また 1 日、作業、活動に関わることが大変だったり、たとえ小さな集団でも、その場にいることが困難な仲間が増えています。作業の充実、これが柱にはなっていますが、そこを離脱した仲間たちの充実に試行錯誤した 1 年でした。

### 重点目標

#### 1. 仲間の life を支える

試行錯誤を繰り返しながらも、仲間たちの life を支えると言う重点目標の下に、身体と心と脳の健康をテーマに、食べること、動くこと、考えることに重点を置き、作業や活動を組み立てました。職員の支援の質が仲間たちの活動の質に比例しますので、私たち支援者の学びと広い視野がいかに大切か痛感しました。

#### 2. 仲間の暮らしを支える

保護者主体の通院支援も、都合に応じて、ホームの職員が付き添うことを行いました。健康面では、通院支援の他に、服薬している薬の効能と現在の使用方法があっているのか、交代で勤務する世話人みんなが納得できる形で支援できるように、薬剤師(保護者)にアドバイスを頂く機会が持てました。

仲間の暮らしとは・・・日中の作業場や活動の場との連携、心身の健康、親との繋がり等々、範囲が広すぎて、本人からの想い

二か所のGHの内、「SUN」は土曜日、日曜にも世話人が宿泊していますので、家庭の都合や、本人の意志で週末帰宅をしない選択ができます。しかし「とも」は職員体制が整わず、週末帰省をしてもらっています。希望を聞くことさえできない状況が続いています。

### 3. 仲間の命を守る

- ・ ヒアリハット件数 8 件

病院に行くような大きなケガはなし

・9月23日の台風15号による被害(断水)に家庭にいることが困難な仲間の受け入れを2日目より行いました。通常に戻った後、アンケートを取り、課題を洗い出し、次年度の計画に盛り込みました。

・健康ための活動を活発に行いました 生活介護・就労継続の報告参照

### 4. 仲間を支援する職員一人ひとりの意識の向上

外部内部研修に多くの職員が参加しました。年末には職員研修報告会も開催しました。詳細は研修報告参照

反省は参加した研修ごとに、職員会議で報告する場を設けたかったのですが、なかなか時間が取れませんでした。

### 5. 地域発信

コロナ感染が引き続いてきたため、地域のお祭りや防災訓練、イベントは中止が多かったです。地域支援活動会議には瀧戸が参加しています。お店では、ミニイベントやマルシェを開催しました。詳細は就労継続の報告参照

### 6. その他

GH「とも」の移転については、動きはありませんでした。

来期は、土地の所有者にこちらからお話を持っていくように努める予定です。

### 7. 虐待、苦情、ハラスメントの事案及び報告

ともの家(生活介護)の前の土地→現在駐車場として利用

土地に猫が糞をしてしまい、日々片付けてはいたのですが、お休みが続いた雨の日に、隣の家の前まで糞が流れてきたとのことで、アスファルトにする予定はないのかと、尋ねられました。すぐに見積もりを取り、2022年度中に完成させました。

補正予算を組みました。